

地域保健 11

2016

●特集1

事例検討会を効果的に進める

●特集2

私のターニングポイント





《表紙イラスト》
山本まもる

「ここはサルがボート漕いでくれるし、紅葉は綺麗だしサイコーの湖だね」

6

【特集 1】

事例検討会を効果的に進める

- 8 【概論】「事例検討のすすめ～実践力 UP 事例検討会～」について
中板育美（日本看護協会）
- 14 地域に密着した母子支援体制の充実を目指して
一市町村との事例検討会の合同開催 谷口理絵（富山県高岡厚生センター）
- 18 個別支援力の向上と多職種参加—姫路市の事例検討会の取り組み
岩崎知子（姫路市保健所）
- 24 元気になる！仲間がつながる！事例検討会—土佐市の事例検討会の取り組み
楠瀬しのぶ（土佐市健康づくり課）
- 30 新任期保健師の力量形成を目指したインフォーマルな事例検討会
—埼玉県看護協会の「スキルアップにつながる事例検討会」の取り組み
斉藤富美代（埼玉県看護協会）

36

【特集 2】

私のターニングポイント ～保健師として成長した「あのとき」「あの出来事」～



- 38 進学、異動、そして出会い 前田恵子（高崎市福祉部長寿社会課）
- 42 関係性の中で育てられて 吉澤みどり（渋谷区幡ヶ谷保健相談所）
- 46 多くの人たちと関わり、支えられていながらも 山野井尚美（岡山県保健福祉部健康推進課）

- 2 ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ！▶ 藤村保志花さん（香川県西讃保健福祉事務所保健対策課）
- 54 REPORT ▶ 平成 28 年度 保健師中央会議《続報》
- 58 FOCUS ▶ 内臓脂肪の把握で行動変容につなげる
- 64 ピープル ▶ 小林信秋さん（認定 NPO 法人難病のこども支援全国ネットワーク会長）
- 68 2025 年問題に備える～みんなで取り組む「地域づくり」▶ 埼玉県小仏野町
- 78 理解して生かす保健師用語 ▶ アウトリーチ

90 情報BOX

96 次号予告／奥付

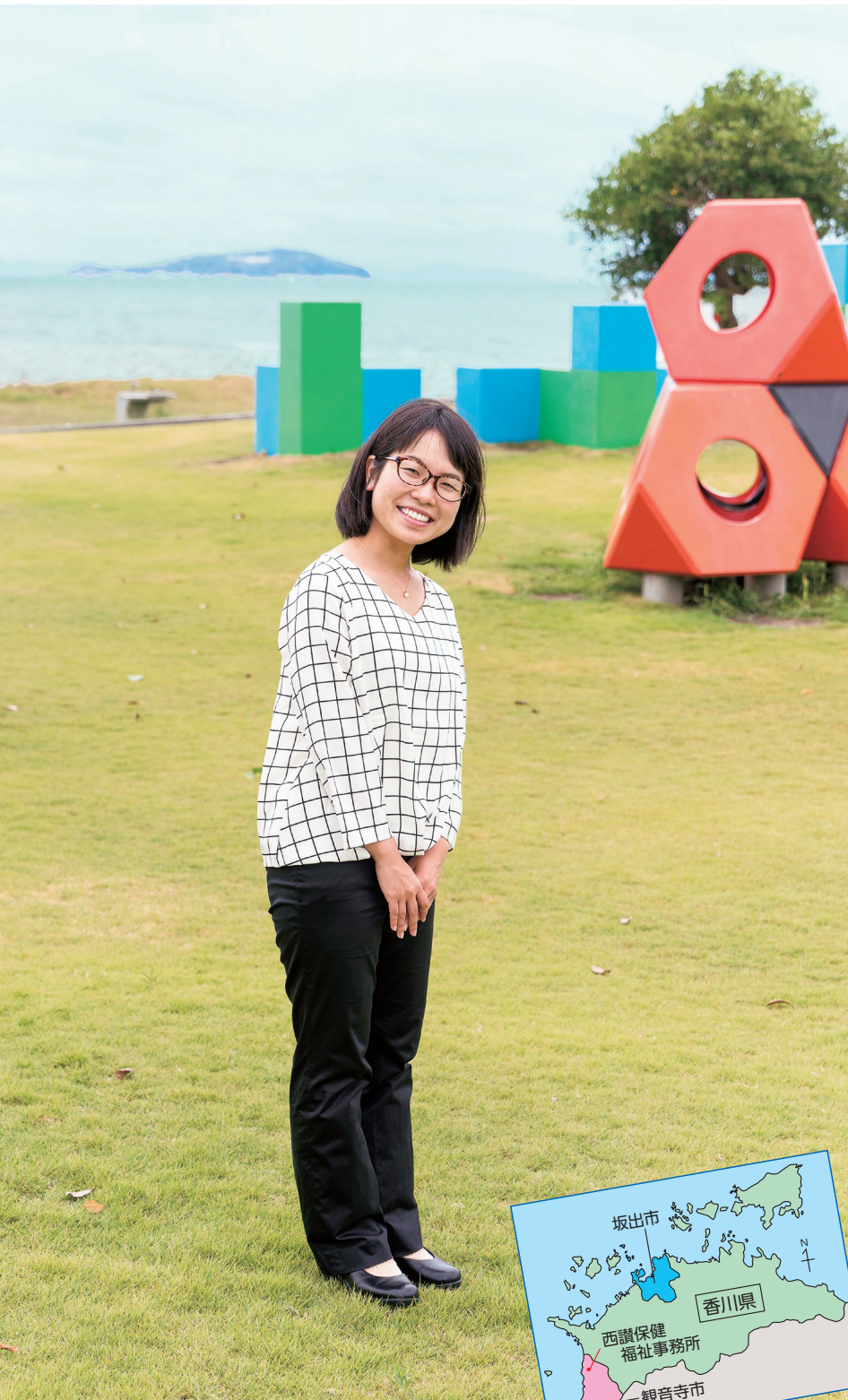
連載

- 50 Integrated Health のすすめ《第 4 回》／今 知美
- 52 ESSAY 国際保健《第 16 回》／松田正己
- 74 保健師のための閑話ケア《第 67 回》／藤本裕明

- 80 〔新〕百花繚乱 「曼珠沙華」《第 1 話》／森岡花華
- 82 中臣さんの環境衛生ウオッチング《第 52 回》／中臣昌広
- 86 言葉と発達 いまどき子育てアドバイス《第 226 回》／中川信子

ひよこ

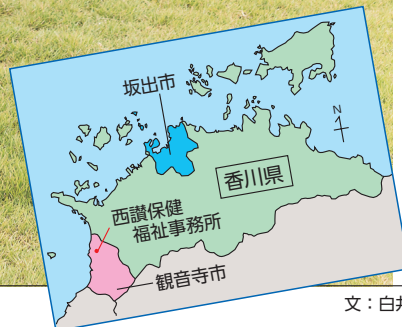
ホップ★ステップ★ジャンプ!



藤村保志花 さん

● 香川県西讃保健福祉事務所 保健対策課

「さまざまな分野を経験し、しっかり勉強して
いききたい」と語る3年目。特技はジャグリング。



文：白井美樹（ライター） 写真：カミヤス セイ

家族構成：父36歳、母35歳、長女6歳、長男3歳

事例検討会を効果的に進める

グラウンドルール
○事例はみんなど誰かを責める会にしない
○事例提供者の支援内容を否定／批判しない
○事例提供者の発言する
○ファシリテーターの指名には応える
○事例提供者をねぎらう

事例検討会は人材育成の手法として普及

している。業務のアウトソーシングが進む中、保健師の手元には困難事例が多く残る傾向にあり、そうした面からも複数の目で検討する事例検討会には効果が期待できる。しかし、事例検討会が事例報告者を追及する場になってしまったり、単なるアドバイスの場になってしまったり、効果的に行われていない場合も少なからずある。

特集では、日本看護協会が開発した事例検討会の手法を中心に、効果的な事例検討会の進め方の解説をはじめ、参考となる取り組み事例などをまとめる。

具体的な支援策：母と児が楽しめる遊びを見つける

- P8** 【概 論】「事例検討のすすめ～実践力UP事例検討会～」について
◎中板育美（日本看護協会）
- P14** 地域に密着した母子支援体制の充実を目指して
―市町村との事例検討会の合同開催
◎谷口理絵（富山県高岡厚生センター）
- P18** 個別支援力の向上と多職種参加
―姫路市の事例検討会の取り組み
◎岩崎知子（姫路市保健所）
- P24** 元気が出る！ 仲間がつながる！ 事例検討会
―土佐市の事例検討会の取り組み
◎楠瀬しのぶ（土佐市健康づくり課）
- P30** 新任期保健師の力量形成を目指したインフォーマルな事例検討会
―埼玉県看護協会の「スキルアップにつながる事例検討会」の取り組み
◎斉藤富美代（埼玉県看護協会）



私のターニングポイント

保健師として成長した

「あるとき」「あの出来事」

保健師の仕事は複雑で、言葉で簡単に言い表すことはできない。多くの保健師は、研修等から得た情報を参考にしたり、先輩のアドバイスを耳を傾けたり、自らの体験を消化する中で、固有の保健師像を形成しながら成長していく。そのプロセスの中で、保健師としてももの見方が変わったり、新たな決意を固めたりするときがある。それは、住民との関わりだったり、部署の異動や昇進だったり、恩師との出会いだったり、さまざまだ。

ベテラン保健師の方々に、保健師としての転換期（ターニングポイント）を軸に、自らの保健師のキャリアを振り返っていただいた。



P38 進学、異動、そして出会い
◎前田恵子（高崎市福祉部長寿社会課）

P42 関係性の中で育てられて
◎吉澤みどり（渋谷区幡ヶ谷保健相談所）

P46 多くの人たちと関わり、支えられていがある
◎山野井尚美（岡山県保健福祉部健康推進課）

小林信秋

さん

●認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク会長

「難病であつても子どもの成長に合わせたケアが必要」

小林さんは、長年にわたり、難病や障害のある子どもと親を支える活動を続けてきた。親の会の活動では、その働き掛けで医療や行政のしくみが改善されたり、人々の理解が得られたりしたことも少なくない。

●聞き手……白井美樹（ライター）

さまざまな難病の子どもの
持つ親たちの結び役

——難病のこども支援全国ネットワークが設立された経緯について教えてください。

小林 私長の男は5歳のとき、亜急性硬化性全脳炎（SSPE）を発症しました。SSPEとは、はしかに罹患した後、長期間を経てから発症する脳疾患で、まだ治療法が確立されていない難病です。

闘病生活の間に、主治医に勧められてSSPEの親の会を作り、私はその事務局を担当するようになりました。当時はサラ

リーマンでしたが、仕事の傍ら電話相談に応じたり、機関紙を作ったり、患者と家族の交流の場を作ったりしていたのです。

そんな私の活動を見ていたある医師から、単一の病気ではなく、難病全体にわたって子どもの患者と家族を支える活動をしなにかと勧められました。そこで、息子が亡くなる直前の1988（昭和63）年にサラリーマンを辞めて、支援活動を始めました。活動は次第に広がっていき、10年後の98（平成10）年に、現在のNPO法人難病のこども支援全国ネットワーク（以下、ネットワーク）が設立されたのです。2009（平成21）年からは認定NPO法人となっていま

す。

——主にどのような活動をされているのでしょうか。

小林 最初に始めたのが、電話相談です。さまざまな難病の子どもを持つ親から電話がかかってくるので、話を聞いているうちに、みんな話合ったり情報交換したりする場が必要だと思ふようになりました。そこで、シンポジウムも開催するようにしたのです。

また、活動の一環として、親の会の活動支援があります。

バックナンバー紹介

2015 年 10 月号

特集「働く人の健康を守る

～すべての人に必要な支援を～

中小企業の労働者、非正規雇用労働者、自営業者などは支援が届きにくい。公衆衛生従事者が着目すべき視点とは、今できる支援とは。

2015 年 11 月号

特集「ネット社会の病理を探る

～保健師として知っておきたいこと～

子どもの発達・発育への悪影響をはじめ、人間の精神に及ぼすマイナス作用など、保健の観点からネット社会に潜む負の側面を取り上げる。

2015 年 12 月号

特集「難病保健を推進するために」

新しい制度下における保健師の難病保健と難病支援の在り方に関する座談会、地域包括ケアシステムと難病対策、難病患者の就労支援で構成。

2016 年 1 月号

特集「成功に導く

ポピュレーションアプローチの進め方」

成功すれば社会的影響が大きいポピュレーションアプローチ。概念の正確な解説とともに、全国で先進的に実施している成功例を紹介。

2016 年 2 月号

特集「高齢者の心と向き合い、生きがいを支える」

高齢者＝弱者ではなく、喪失体験と折り合いをつけていく強さも持っている。さまざまな視点から「老い」に対する理解を深める。

2016 年 3 月号

特集「保健師にとって根拠（エビデンス）とは何か？」

保健師がよく使う根拠（エビデンス）という言葉について整理を試みる。研究機関と現場、それぞれの「知」を融合させる一歩を目指す。

2016 年 5 月号

特集「次世代に伝えたい保健師のスキル」

若手・中堅のスキル低下が危ぶまれる状況を背景に、ベテラン保健師が伝えたいことを独自の視点でまとめる。

座談会「新しい時代における保健師のビジョン」

地域包括ケアの推進や産業界とのコラボレーションなど、保健師を取り巻く環境が大きく変わる中で、公衆衛生看護の担い手である保健師の立ち位置を模索する。

2016 年 7 月号

特集1「保健師が関わる地域包括ケア」

保健・医療・介護の大きな流れである地域包括ケアについて、保健師の関わり方に焦点を当て、各地の好事例を紹介する。

特集2「小児慢性特定疾病対策を推し進める」

改正児童福祉法に基づく小児慢性特定疾患対策について、新制度への理解を深めるとともに、保健師が関与した具体例を見る。

2016 年 9 月号

特集1「がんサバイバーシップを支える」

がんの治療後に充実した幸せな人生を送るための「がんサバイバーシップ」を地域で支えていく取り組みを事例紹介とともに考える。

特集2「災害時の子どものメンタルヘルス」

東日本大震災で子どもの心のケア支援に当たった医師・保健師が語る、ケアのポイント。熊本地震の子どもの心のケアに関するレポートも。

お申し込みは

(株) 東京法規出版 地域保健編集部

FAX : 03 - 5977 - 0385

※バックナンバーの価格

(2016 年 3 月号まで) 925 円 (税込) + 送料 140 円、

(2016 年 5 月号から) 1,480 円 + 送料 151 円

『地域保健』購読のご案内

●年6回、隔月〔奇数月〕1日発行

●B5判、総100頁（本文96頁、表紙4頁）

●価 格 1冊あたり 1,480円（税込）、送料151円

年間購読 《公費前納および個人》7,990円（税込、送料弊社負担）

年間購読 《公費後納》8,878円（税込、送料弊社負担）

※学生割引あり。 ※学生および書店の方は下記にお問い合わせください。

お申し込み

電話 03-5977-0300 FAX 03-5977-0385 ウェブ <http://www.tkhs.co.jp>